

NEC田んぼ作りプロジェクト（上太田）レポート VOL. 31

「復田イベント」を実施、かも池の草刈をしました！

2 / 2 3 : お話&意見交換, 5 6 番地（かも池）の草刈

2013年 3月25日

谷津田再生の目的学び、田んぼ作りプロジェクトのこれからについて話し合いました

はじめに、霞ヶ浦の水源地である上太田の谷津田を再生する目的について、アサザ基金の飯島より、上太田の谷津田は全長1キロもあり細長いという特徴や、耕作放棄され長い年月が経ってしまっていること、谷津田が再生されることで帰って来た生き物たち等について説明がありました。また、トキを呼び戻すために必要な、生態などについて学習しました。



その後、2つのグループに分かれて、これからの上太田の田んぼで取り組んでいきたいことについて意見を出し合いました。初めて参加した人もいて、なかなか意見を出しにくい様子も見られましたが、最終的にはたくさんのアイデアが産まれました。



みなさんからいただいた意見を実施の可能性などを踏まえて3段階に分類し、まとめてみました。是非、挑戦したいというテーマがありましたら、活動の時に教えてください。短期・中期・長期と分けていますが、皆さんの発想や思い入れによって、いきなり実現するテーマもあるかもしれません。

<短期計画> 2013年度から3年間の取り組みで、実施が可能と考えられるプログラム

環境センサー	竹炭
ホタル狩り	竹林の人道づくり「さ」まで
カニをたんぼで見つけない	竹林の道
A B 田んぼを不耕起に	水路を廻して流れをゆるやかに
ソバ	栗拾い
炭焼き窯	生物パネル（多くの人にわかるように）
ビオトープたくさん	四季を感じられるイベント（サクラで花見、竹でそうめん流し、栗の木栗ご飯）
子ども探検コース	竹馬場
野鳥観察	鳥の巣箱
どんぐりの木	竹の秘密基地
ピザ窯	雑木林の整備
傘作り	かかし
畑	お花畑
柿、栗の木を植える	工作
竹細工	

<中期計画> 谷津田全体が再生される2020年までに、上太田で取り組んでいきたいプログラム

雑木林の人道づくり「よ」まで	井戸（水場）
植菌（キノコ）	美味しい水が飲みたい
タケノコとり	水車
牛	竹でアスレチック
ヤギ	ホタルが見えるキャンプ場
鶏	柳川鍋
小水力発電	天然うなぎ
ツリーハウス	大きな池
ハンモック	見晴らし台
ぶらんこ	春の小川をつくりたい
作業小屋	

<長期計画> 長い目で考えて行けたらいいかな！？ と思うプログラム

神社	イングリッシュガーデン
東屋	日本庭園
風車	プール
レストラン&カフェ	家
バイオトイレ	ペット
牧場	キャンプ場
鴨&ネギ	



Aグループリーダーからの発表



Bグループリーダーからの発表

福祉センターでの昼食！

霞ヶ浦産川えびのかき揚げ、地元牛久女化産のさつまいも天ぷらなど、好評でした！



初めて、福祉センター内の調理室で昼食でした。調理担当曰く、IH調理器や、電気炊飯器など慣れない場所での準備は大変だったとのこと。しかし、苦勞の甲斐あってか、とても美味しかったです。



午後からは復田作業 56番地（通称かも池）の草刈りを行いました。



足下がぬかるみ、ガマの穂などの種子やホコリが舞う、大変な作業でした。



フジの根を掘り起こす作業はとても大変でした。



大きな刈草の山が3つも出来上がりました！



カヤネズミの巣が5つ、カマキリの卵塊が14個見つかりました。

カヤネズミは、体重7～14gの日本で一番小さなネズミです。かつては、農村の周辺に家畜の飼料や屋根材料を目的とした、定期的に人の手が入るカヤ場などの草原がありました。行動圏が狭く、すみかやくらしが草原の中で行われ、寿命が1年程度と短い生き物です。しかし近年、それらの場所が利用されなくなり、遷移が進んで雑木林化、逆に開発されて消失したため、非常にその数を減らし、地域によっては絶滅寸前にまで追い込まれています。



カヤネズミの巣は、地上1～2mの高さに野球ボール大の球巣をつくり、イネ科やカヤツリグサ科などの葉をそのまま巻き込んでつくります。

目の粗い休息用の巣と、目の密な子育て用の巣を作りますが、球巣は、その年限りで壊れてしまいます。

カヤネズミの餌は、エサはエノコログサなどイネ科の種子やバッタのような昆虫類です。

翌々日、刈った草を片付けようと、開けたばかりの56番地（かも池）へ行くと、足下に何か動く生き物が…。

たくさん巣の見つかったカヤネズミです。隠れ家が減ったので猛禽類に襲われないことを願っています。

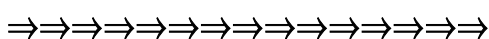


小さくても大人です！



1時間半の作業を終えて、徐々に
見晴らしが良くなってきました。

作業前の様子



作業後の様子



今回、作業を行ったかも池の周辺は、北側半分（写真奥）を水田として復田し、南側半分（写真手前）とかも池をビオトープとして活用します。

乾地と湿地、2つのビオトープを作ります。

乾いた草原は、定期的に人の手が入ることで、カヤネズミが生息しやすい環境を残して行きたいと思います。そして、かも池を中心とした周囲は、水田を乾燥させないとならない時期に水生昆虫の避難場所になると共に、開けた水面を好むシオカラトンボや、水生植物が茂った湿地や沼を好むホソミオツネトンボ、やわらかい水草に産卵するギンヤンマなど、豊かなトンボ相が回復する場となります。多くのトンボたちによって、イネの害虫が補食され、無農薬でも食害の無い稲作を行うことが出来ます。また、水辺をあまり離れることの無い、トウキョウダルマガエルなども住みやすく、ため池が多く生き物たちにとってかけがえのない場所になるとと思います。



かも池の水面が見えるようになりました



田んぼから、谷津田の中が見渡せるようになりました



作業終了後、記念撮影 お疲れ様でした！

◆◆◆◆◆
子ども達は、上太田の林や、霞ヶ浦流域で集めた「どんぐり」で工作をしました！

◆◆◆◆◆
子ども達は、インターン生の筑波大学の学生と一緒に、一昨年に達人たちが再生した林の小道を歩いて、シラカシなどのどんぐりを拾いました。そして、復田の際に切り落としたヤナギの幹（輪切り）を土台に、コナラやナラガシワ、クリを使って、思い思いのどんぐりワールドを創作しました！



すてきな作品がたくさんできました！





活動の締めには、お汁粉をみんなで食べました。中に入っている白玉は、日本晴を醸造するときに削られた米粉を利用しました。今年の仕込みの精米歩合は60%、美味しいお酒にするために40%が削られています。今回、参加者のお土産は、米粉と、地元のお米でした。谷津田をきれいにしてもらっているお礼にと、谷津田の地主さんが、自宅用に栽培した除草剤1回・無殺虫剤・谷津の地下水で育てた自信のお米を、前日に精米して届けてくださいました。



作業が終わり、NECのボランティアスタッフの皆さんが解散し、二度目の道具の回収に戻った際、早速アオサギのつがいが、見通しの良くなった谷津田にやってきていました。以前から、利用していた1羽に加え、3羽が交代でやってきているようです。

これから、春の田植えに向けて、除根や畦づくりの作業が本格化します！皆さんのご参加をお待ちしています。

認定NPO法人アサザ基金 小堀進